

MASTER ENGLISH
STEP BY STEP

GRAMMAR
BUILDS
YOUR
POSSIBILITIES

THE PARTICIPLE

— 分詞で、英語がもっと広がる —

A KEY TO RICHER EXPRESSIONS

Falling.
Running.
Exciting.
Surprised.
Having finished.

These Actions
Make a Brighter
Tomorrow.

FALLING LEAVES

Present Participle

FALLEN LEAVES

Past Participle

LANGUAGE
OPENS
NEW HORIZONS.

ENGLISH
FOR A BRIGHTER
TOMORROW



【1】分詞の基本

- (1) 分詞についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① 名詞から作られ、主に副詞として働く語である
 - ② 動詞から作られ、形容詞のような働きをすることがある語である
 - ③ 形容詞から作られ、必ず名詞として働く語である
 - ④ 動詞とは関係なく、時制だけを表す語である
- (2) 現在分詞の基本的なイメージとして、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① 静止・完成・受動
 - ② 動作・動き・未完了
 - ③ 過去・終了・否定
 - ④ 状態・所有・完了
- (3) 過去分詞の基本的なイメージとして、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① 動作・進行・未完了
 - ② 習慣・反復・能動
 - ③ 静止・完成・受動
 - ④ 未来・予定・意志

【2】現在分詞・過去分詞の作り方

- (4) 現在分詞<-ing 形>の作り方について、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① 原則として原形に -ing を付け、語尾の e も必ず残す
 - ② 原則として原形に -ing を付け、最後の子音字を必ず重ねる
 - ③ 原則として原形に -ing を付けるが、e を取ったり、最後の子音字を重ねたりすることがある
 - ④ 原則として過去形に -ing を付け、不規則動詞だけ原形を用いる
- (5) 次の動詞と現在分詞の組み合わせとして、すべて正しいものを1つ選びなさい。
- ① play → playing / write → writing / run → running
 - ② play → plaing / write → writeing / run → runing
 - ③ play → playing / write → writting / run → runing
 - ④ play → plaing / write → writing / run → running
- (6) 過去分詞の作り方について、最も適切な説明を1つ選びなさい。
- ① すべての動詞について原形に -ed を付ける
 - ② 規則動詞は原則として -ed 形を用い、不規則動詞には固有の形がある
 - ③ 過去形に必ず -ed を付けて作る
 - ④ 現在分詞から -ing を取り、-ed を付けて作る
- (7) 次の動詞と過去分詞の組み合わせとして、すべて正しいものを1つ選びなさい。
- ① use → used / write → written / see → seen / make → made

- ② use → used / write → wrote / see → saw / make → made
 ③ use → used / write → wrote / see → seen / make → made
 ④ use → using / write → written / see → saw / make → making
- (8) 次の動詞の組み合わせのうち、3 つとも過去形と過去分詞が同じ形になるものを 1 つ選びなさい。
- ① put・take・make
 ② put・set・read
 ③ come・run・become
 ④ write・speak・choose

【3】分詞の基本的な働き

- (9) 分詞が形容詞として働く場合について、最も適切な説明を 1 つ選びなさい。
- ① 名詞を修飾したり、補語になったりすることがある
 ② 動詞を修飾したり、接続詞になったりすることがある
 ③ 主語になったり、目的語になったりすることだけができる
 ④ 名詞を修飾できるが、補語になることはできない
- (10) 次の英文のうち、現在分詞が名詞を修飾しているものを 1 つ選びなさい。
- ① Singing English songs is fun.
 ② My sister is singing an English song.
 ③ I know the girl singing on the stage.
 ④ My sister likes singing English songs.
- (11) 次の英文のうち、過去分詞が名詞を修飾しているものを 1 つ選びなさい。
- ① Tom broke the window yesterday.
 ② The window was broken yesterday.
 ③ We repaired the window broken by the boy.
 ④ The window broke during the storm.
- (12) a running boy と a broken window の違いについて、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- ① running も broken も、動作の進行を表している
 ② running は受動、broken は能動の関係を表している
 ③ running は動き・能動、broken は静止・完成・受動を表している
 ④ running は現在、broken は過去の時を表している

【4】分詞の位置

- (13) 分詞が名詞を修飾するときの位置について、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- ① 分詞は必ず名詞の前に置く

- ② 分詞は必ず名詞の後ろに置く
 - ③ 分詞単独なら原則として名詞の前、語句を伴えば名詞の後ろに置く
 - ④ 現在分詞は名詞の前、過去分詞は名詞の後ろに置く
- (14) a sleeping baby と a baby sleeping on the sofa で、分詞の位置が異なる理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① sleeping が表す時制が異なるから
 - ② 単独の分詞と、語句を伴う分詞のまとまりでは修飾する位置が異なるから
 - ③ baby が人を表す名詞だから
 - ④ sleeping の品詞そのものが異なるから
- (15) 次の英文のうち、現在分詞の使い方として正しいものを1つ選びなさい。
- ① Look at the boy playing soccer in the park.
 - ② Look at the boy played soccer in the park.
 - ③ Look at the playing soccer boy in the park.
 - ④ Look at the boy is playing soccer in the park.
- (16) 次の英文のうち、過去分詞の使い方として正しいものを1つ選びなさい。
- ① I found a bike stealing near the station.
 - ② I found a bike stolen near the station.
 - ③ I found a stolen near the station bike.
 - ④ I found a bike was stolen near the station.

【5】現在分詞と動名詞・進行形

- (17) 現在分詞と動名詞について、最も適切な説明を1つ選びなさい。
- ① 形はともに V-ing だが、文中での働きが異なる
 - ② 現在分詞は V-ing、動名詞は V-ed の形になる
 - ③ 現在分詞は名詞、動名詞は形容詞として働く
 - ④ 形が同じなので、文法上の働きにも違いはない
- (18) 次の2つの singing の違いについて、最も適切なものを1つ選びなさい。
- (A) I know the girl singing on the stage.
(B) Singing is fun.
- ① (A)(B)ともに動名詞である
 - ② (A)(B)ともに現在分詞である
 - ③ (A)は girl を修飾する現在分詞、(B)は主語になる動名詞である
 - ④ (A)は動名詞、(B)は現在分詞である
- (19) V-ing が現在分詞か動名詞かを判断する際に、最も重要なものを1つ選びなさい。
- ① V-ing が表す時だけを考える
 - ② V-ing の直前の単語だけを見る
 - ③ V-ing が文中でどのような働きをしているかを見る

④ V-ing の主語が人か物かを見る

(20) 現在分詞の働きについての説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- ① 現在分詞は、have と組んで完了形を作る
- ② 現在分詞は、be 動詞と組んで受動態を作る
- ③ 現在分詞は、be 動詞と組んで進行形を作る
- ④ 現在分詞は、助動詞と組んで過去形を作る

【6】過去分詞と過去形・完了形

(21) 過去分詞の働きについての説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- ① 過去分詞は、過去の状態を表す
- ② 過去分詞は、have と組んで完了形を作る
- ③ 過去分詞は、have と組んで過去形を作る
- ④ 過去分詞は、be 動詞と組んで動作の進行中を表す

(22) 過去形と過去分詞の違いについて、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- ① 過去形も過去分詞も、それ自体で過去の時を表す
- ② 過去形は形容詞として、過去分詞は副詞として働く
- ③ 過去形は時制を表す動詞の形で、過去分詞は完了形・受動態などに用いられる
- ④ 過去分詞は過去の出来事を表す文でしか使うことができない

(23) 次の 2 文の wrote と written について、最も適切な説明を 1 つ選びなさい。

- (A) Tom wrote this letter.
- (B) This letter was written by Tom.

- ① wrote も written も過去形である
- ② wrote も written も過去分詞である
- ③ wrote は過去分詞、written は過去形である
- ④ wrote は過去形、written は過去分詞である

(24) 規則動詞では過去形と過去分詞が同じ形になる。このことについて、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- ① -ed 形はすべて過去形と考えればよい
- ② 形が同じでも、文中での働きから過去形か過去分詞かを判断する
- ③ 規則動詞には過去分詞という形はない
- ④ 形が同じなら、文中での働きも同じになる

(25) 次の played のうち、過去分詞として使われているものを 1 つ選びなさい。

- ① Ken played tennis yesterday.
- ② My brother played soccer after school.
- ③ We played baseball in the park.
- ④ The game played yesterday was very exciting.

(26) He stood by his teacher. が正しく、この意味で He was stood by his teacher.

としない理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① stand の過去形は stood ではないから
- ② be 動詞の後ろには stood を置くことができないから
- ③ この stand は「立つ」という自動詞で、受動態にする目的語を取らないから
- ④ his teacher が人を表すので、by を使うことができないから

【7】感情を表す分詞

- (27) 感情を表す動詞からできた現在分詞・過去分詞について、最も適切な説明を1つ選びなさい。
- ① 人には必ず現在分詞、物には必ず過去分詞を用いる
 - ② 感情を与える側には現在分詞、感情を受ける側には過去分詞を用いるのが基本である
 - ③ 現在分詞は現在、過去分詞は過去の感情を表す
 - ④ 現在分詞と過去分詞には意味上の違いはない
- (28) 「その知らせは私を驚かせた」という関係を分詞で表す場合、最も適切な組み合わせを1つ選びなさい。
- ① surprised news — surprising me
 - ② surprised news — surprised me
 - ③ surprising news — surprised me
 - ④ surprising news — surprising me
- (29) 次の英文のうち、分詞の使い方として正しいものを1つ選びなさい。
- ① I was surprising at the news.
 - ② I was surprise at the news.
 - ③ I surprised at the news.
 - ④ I was surprised at the news.
- (30) an exciting game と excited players の違いについて、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① game は物なので exciting、players は人なので excited になる
 - ② exciting は現在、excited は過去の感情を表している
 - ③ exciting と excited には意味上の違いはない
 - ④ game は興奮を与える側、players は興奮を受ける側である
- (31) 感情を表す分詞を「人なら過去分詞、物なら現在分詞」とだけ覚えるのが適切でない理由を1つ選びなさい。
- ① 人には現在分詞を使うことができないから
 - ② 物には過去分詞を使うことができないから
 - ③ 現在分詞と過去分詞は自由に交換できるから
 - ④ 人・物ではなく、感情を与える側か受ける側かで判断するから
- (32) 次の動詞の組み合わせのうち、人を主語にした場合に、過去分詞形で「人が～と感じる」とい

う意味を表すものを1つ選びなさい。

- ① interest・surprise・rise
- ② interest・surprise・excite
- ③ interest・rise・excite
- ④ stand・surprise・excite

- (33) He is interested in English. と He is interesting. の違いについて、最も適切な説明を1つ選びなさい。

- ① interested は「興味を感じている」、interesting は「人に興味を感じさせる」という意味になる
- ② interested は過去の感情、interesting は現在の感情を表す
- ③ interested は人に、interesting は物にしか使うことができない
- ④ interested は「興味を与える」、interesting は「興味を感じる」という意味になる

【8】分詞と補語

- (34) He seemed surprised. と He was surprised. について、最も適切な説明を1つ選びなさい。

- ① seemed surprised の surprised は補語として He の状態を説明している
- ② seemed surprised の surprised は過去形として時制を表している
- ③ seemed surprised は「彼は人を驚かせた」という意味を表している
- ④ seemed の後ろでは過去分詞を使うことができない

- (35) get the water running が正しく、get the water run としない理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① get の後ろでは動詞の原形を使うことができないから
- ② water は「流される側」なので過去分詞を使うから
- ③ water が run という動作をする側で、OとCが能動の関係になるから
- ④ run は過去形にしなければならないから

- (36) keep him waiting が正しく、keep him waited としない理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① keep の後ろでは過去分詞を使うことができないから
- ② him が人を表すので、必ず現在分詞を使うから
- ③ him が wait という動作をする側で、OとCが能動の関係になるから
- ④ wait が自動詞なので、過去分詞という形を持たないから

- (37) with her arms folded が正しく、with her arms folding としない理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① arms が複数形なので、現在分詞を使うことができないから
- ② with の後ろでは、現在分詞を使うことができないから
- ③ her arms は「折りたたむ側」ではなく「折りたたまれた状態」にあるから

④ fold は不規則動詞なので、folding という形を持たないから

【9】分詞構文

- (38) 分詞構文についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① 分詞を名詞として用いる表現である
 - ② 過去の出来事だけを表す表現である
 - ③ 必ず接続詞を残して作る表現である
 - ④ 分詞を用いて、主節に時・理由・付帯状況などの意味を加える表現である
- (39) 分詞構文の意味上の主語について、最も適切な説明を1つ選びなさい。
- ① 分詞構文の意味上の主語は、直前の名詞と一致する
 - ② 分詞構文の意味上の主語は、分詞の後ろの名詞と一致する
 - ③ 分詞構文の意味上の主語は、原則として主節の主語と一致する
 - ④ 分詞構文の意味上の主語は、自由に決めることができる
- (40) 分詞構文を作るときの基本的な手順として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① 最初に、接続詞を消す ➡ 主語を比べ、同じなら残し、異なるなら消す ➡ 時制が同じなら V-ing、主節より古ければ having+過去分詞にする
 - ② 最初に、接続詞を消す ➡ 主語を比べ、同じなら消し、異なるなら残す ➡ 時制が同じなら having+過去分詞、主節より古ければ V-ing にする
 - ③ 最初に、接続詞を消す ➡ 主語を比べ、同じなら消し、異なるなら残す ➡ 時制が同じなら V-ing、主節より古くても V-ing にする
 - ④ 最初に、接続詞を消す ➡ 主語を比べ、同じなら消し、異なるなら残す ➡ 時制を比べ、同じなら V-ing、主節より古ければ having+過去分詞にする
- (41) Walking along the river, I saw a beautiful sunset. の Walking の意味上の主語として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① the river
 - ② a beautiful sunset
 - ③ I
 - ④ Walking
- (42) 「ここから見れば」を Seen from here と表し、Seeing from here としない理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① see は状態を表す動詞なので、現在分詞を用いることができないから
 - ② from here は場所を表すので、現在分詞を用いることができないから
 - ③ 分詞構文の意味上の主語は主節の主語と一致し、その主語が「見られる側」になるから
 - ④ 他動詞 see は、分詞構文では必ず過去分詞にしなければならないから
- (43) Surprised by the news, she couldn't speak. で Surprised が過去分詞になっている理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① she が人を表しているから

- ② news が物を表しているから
 ③ 出来事が過去に起こったから
 ④ she が「驚かせる側」ではなく「驚かされる側」だから
- (44) 分詞構文を否定するときの形として、最も適切なものを1つ選びなさい。
 ① knowing not
 ② no knowing
 ③ not knowing
 ④ don't knowing
- (45) Not knowing what to say, I remained silent. の意味として、最も適切なものを1つ選びなさい。
 ① 何を言うべきか知っていたので、私は黙っていた
 ② 何を言えばよいかわからなかったので、私は黙っていた
 ③ 何を言うか知るために、私は黙っていた
 ④ 何も言わずに、私はその場を立ち去った
- (46) Having finished the report, she went home. の Having finished が表していることとして、最も適切なものを1つ選びなさい。
 ① レポートの完成と帰宅が同時に起こった
 ② レポートを帰宅してから完成させた
 ③ レポートを完成させたことが、帰宅より前に起こった
 ④ レポートを完成させるために帰宅した
- (47) 主節より前に完了した動作を分詞構文で明確に表す形として、最も適切なものを1つ選びなさい。
 ① being + 動詞の原形
 例: Being finish my homework, I went out.
 ② having + 現在分詞
 例: Having finishing my homework, I went out.
 ③ having + 過去分詞
 例: Having finished my homework, I went out.
 ④ had + 現在分詞
 例: Had finishing my homework, I went out.
- (48) 完了形の分詞構文を受動態にした形として、最も適切なものを1つ選びなさい。
 ① having + being + 現在分詞
 例: Having being invited to the party, I was very happy.
 ② have been + 過去分詞
 例: Have been invited to the party, I was very happy.
 ③ being have + 過去分詞
 例: Being have invited to the party, I was very happy.

④ having been + 過去分詞

例: Having been invited to the party, I was very happy.

- (49) The weather being fine, we decided to go out. の特徴として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① The weather は主節の目的語である
- ② 分詞構文の意味上の主語は we である
- ③ being はこの文では動名詞として働いている
- ④ 分詞構文に主節とは異なる意味上の主語 The weather が置かれている

- (50) There being ~ で始まる分詞構文についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① there は場所を表す副詞なので、必ず分詞構文の先頭に残す

例: There being the station, we took a rest.

- ② there is / are の there は、分詞構文にすると必ず省略する

例: Being no buses, we had to walk home.

- ③ there is / are 構文を分詞構文にする場合は、there を残して there being ~ の形にする

例: There being no buses, we had to walk home.

- ④ there is / are 構文を分詞構文にする場合は、there を残して there having ~ の形にする

例: There having no buses, we had to walk home.

- (51) It having rained ~ で始まる分詞構文についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① 天候を表す it は必ず省略し、having+過去分詞の形にする

例: Having rained, the ground was wet.

- ② 天候を表す it は残すが、時制に関係なく it being+過去分詞の形にする

例: It being rained, the ground was wet.

- ③ 天候を表す it を残し、雨が降ったことが主節より前なので it having+過去分詞の形にする

例: It having rained, the ground was wet.

- ④ 天候を表す it を残し、主節より前の出来事は it having+現在分詞の形にする

例: It having raining, the ground was wet.

- (52) 分詞構文を否定するときの not の位置についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① not は、分詞の直後に置く

例: Knowing not what to say, I remained silent.

- ② not は、主節の動詞の直前に置く

例: Knowing what to say, I not remained silent.

③ not は、V-ing や having+過去分詞の直前に置く

例:Not knowing what to say, I remained silent.

Not having finished my homework, I stayed home.

④ not は、過去分詞の直前にだけ置くことができる

例:Having not finished my homework, I stayed home.

-
- (1) ② (2) ② (3) ③ (4) ③ (5) ① (6) ② (7) ① (8) ② (9) ① (10) ③
 (11) ③ (12) ③ (13) ③ (14) ② (15) ① (16) ② (17) ① (18) ③ (19) ③ (20) ③
 (21) ② (22) ③ (23) ④ (24) ② (25) ④ (26) ③ (27) ② (28) ③ (29) ④ (30) ④
 (31) ④ (32) ② (33) ① (34) ① (35) ③ (36) ③ (37) ③ (38) ④ (39) ③ (40) ④
 (41) ③ (42) ③ (43) ④ (44) ③ (45) ② (46) ③ (47) ③ (48) ④ (49) ④ (50) ③
 (51) ③ (52) ③

【1】分詞の基本

- (1) 正解②:動詞から作られ、形容詞のような働きをすることがある語である

[解説]分詞は動詞をもとにして作られる形で、現在分詞と過去分詞があります。分詞は動詞の性質を残しながら、名詞を修飾したり補語になったりして、形容詞のように働くことがあります。たとえば a sleeping baby の sleeping は baby を修飾しています。名詞や形容詞から作られるわけではないため、②が正解です。

- (2) 正解②:動作・動き・未完了

[解説]現在分詞 V-ing の基本的なイメージは、「動作・動き・未完了」です。たとえば a running boy では、boy が実際に「走る」という動作をしているところを表します。現在分詞は一般に修飾される名詞との間に能動の関係を持つことが多く、「～している」と考えると理解しやすいため、②が正解です。

- (3) 正解③:静止・完成・受動

[解説]過去分詞の基本的なイメージは、**「静止・完成・受動」**です。たとえば a broken window は「壊された窓」から「壊れている窓」という、動作を受けた後の状態を表します。過去分詞だから必ず「過去」を表すわけではなく、受動・完了した状態を中心に捉えることが大切です。したがって③が正解です。

【2】現在分詞・過去分詞の作り方

- (4) 正解③:原則として原形に -ing を付けるが、e を取ったり、最後の子音字を重ねたりすることがある

[解説]現在分詞は原則として動詞の原形に -ing を付けて作ります。ただし、make → making のように語尾の e を取るものや、run → running のように最後の子音字を重ねるものがあります。すべて e を残す①、すべて子音字を重ねる②、過去形をもとにする④はいずれも誤りなので、③が正解です。

- (5) 正解①:play → playing / write → writing / run → running

[解説]play はそのまま -ing を付けて playing、write は語尾の e を取って writing、run は最後の n を重ねて running とします。特に writeing・runing などよくある誤りなので注意が必要です。3 語すべてが正しい形になっているのは①です。

- (6) 正解②:規則動詞は原則として -ed 形を用い、不規則動詞には固有の形がある

[解説]規則動詞の過去分詞は、原則として play → played のように -ed 形になります。一方、不規則動詞には write → written、see → seen、make → made のように、それぞれ固有の過去分詞があります。すべての動詞を同じ方法で作ることはできないため、②が正解です。

- (7) 正解①:use → used / write → written / see → seen / make → made

[解説]use は規則変化で used、write・see・make は不規則変化で、それぞれ written・seen・made が過去分詞です。wrote・saw は過去形であり、過去分詞ではありません。過去形と過去分詞を区別して覚える必要があるため、すべて正しい①が正解です。

(8) 正解②: put・set・read

[解説] put は put—put—put 、 set は set—set—set 、 read は read—read—read と、いずれも過去形と過去分詞が同じつづりになります。一方、take—took—taken、come—came—come、write—wrote—written などは形が異なります。したがって 3 語とも条件を満たす②が正解です。

【3】分詞の基本的な働き

(9) 正解①: 名詞を修飾したり、補語になったりすることがある

[解説]分詞は形容詞のように働き、名詞を修飾する用法と補語になる用法があります。たとえば a sleeping baby では sleeping が baby を修飾し、He seemed surprised. では surprised が主語 He の状態を説明する補語になっています。したがって①が正解です。

(10) 正解③: I know the girl singing on the stage.

[解説]③の singing on the stage は直前の名詞 the girl を後ろから修飾し、「舞台上で歌っている少女」という意味になります。一方、①④の singing は「歌うこと」を表す動名詞、②は is singing で進行形です。同じ V-ing でも文中での働きが異なるため、③が正解です。

(11) 正解③: We repaired the window broken by the boy.

[解説]③の broken by the boy は the window を後ろから修飾し、「その少年によって壊された窓」という意味になります。①の broke は過去形、②の was broken は be 動詞＋過去分詞の形、④の broke は自動詞の過去形です。名詞を直接修飾しているのは③です。

(12) 正解③: running は動き・能動、broken は静止・完成・受動を表している

[解説]a running boy では boy 自身が run という動作をしているため、動き・能動を表す現在分詞 running を用います。一方、a broken window では window は break という動作を受け、壊れた状態にあるため、静止・完成・受動を表す broken を用います。現在・過去という時の違いではないため、③が正解です。貼り付けた Markdown

【4】分詞の位置

(13) 正解③: 分詞単独なら原則として名詞の前、語句を伴えば名詞の後ろに置く

[解説]分詞が単独で名詞を修飾する場合は、a sleeping baby のように原則として名詞の前に置きます。一方、sleeping on the sofa のように分詞がほかの語句を伴う場合は、a baby sleeping on the sofa のように名詞の後ろから修飾します。したがって③が正解です。

(14) 正解②: 単独の分詞と、語句を伴う分詞のまとまりでは修飾する位置が異なるから

[解説]a sleeping baby の sleeping は 1 語なので baby の前に置かれます。一方、a baby sleeping on the sofa では sleeping が on the sofa を伴ってひとまとまり

りになっているため、baby の後ろに置かれます。時制や品詞が変わったわけではなく、修飾語句の長さや構造による違いなので②が正解です。

- (15) 正解①: Look at the boy playing soccer in the park.

[解説] playing soccer in the park は the boy を後ろから修飾し、「公園でサッカーをしている少年」という意味になります。boy 自身が play するので能動の関係となり、現在分詞 playing が適切です。また、playing soccer in the park は複数語のまとまりなので名詞の後ろに置きます。したがって①が正解です。

- (16) 正解②: I found a bike stolen near the station.

[解説] stolen near the station は a bike を後ろから修飾し、「駅の近くで盗まれた自転車」を表します。bike は steal する側ではなく盗まれる側なので、受動を表す過去分詞 stolen を用います。④のように名詞の直後へ was stolen という節をそのまま置くことはできないため、②が正解です。

【5】現在分詞と動名詞・進行形

- (17) 正解①: 形はともに V-ing だが、文中での働きが異なる

[解説] 現在分詞と動名詞は、どちらも V-ing という同じ形をしています。しかし、現在分詞は形容詞的に名詞を修飾したり補語になったりするのに対し、動名詞は「V すること」という名詞の働きをします。形だけでなく文中での役割を見る必要があるため、①が正解です。

- (18) 正解③: (A) は girl を修飾する現在分詞、(B) は主語になる動名詞である

[解説] (A) の singing on the stage は the girl を修飾しているため、singing は現在分詞です。一方、(B) の Singing は「歌うこと」という意味で文全体の主語になっているため、動名詞です。同じ singing でも文中での働きが異なるため、③が正解です。

- (19) 正解③: V-ing が文中でどのような働きをしているかを見る

[解説] V-ing を見ただけでは、それが現在分詞か動名詞かは判断できません。名詞を修飾・説明しているなら現在分詞、「～すること」として主語・目的語などになっているなら動名詞と考えます。人か物か、現在か過去かで判断するものではないため、③が正解です。

- (20) 正解③: 現在分詞は、be 動詞と組んで進行形を作る

[解説] 現在分詞は be 動詞 + V-ing の形で進行形を作ります。たとえば She is reading a book. の is reading は「読んでいるところだ」という動作の進行を表します。have + 過去分詞は完了形、be 動詞 + 過去分詞は受動態なので、③が正解です。

【6】過去分詞と過去形・完了形

- (21) 正解②: 過去分詞は、have と組んで完了形を作る

[解説] 過去分詞は have + 過去分詞 の形で完了形を作ります。たとえば I have finished my homework. では have finished が現在完了形です。過去分詞そのものが過去の時を表すわけではなく、have と組んで完了を表すため、②が正解です。

- (22) 正解③: 過去形は時制を表す動詞の形で、過去分詞は完了形・受動態などに用いられる

[解説]過去形は I wrote a letter yesterday. の wrote のように、過去という時制を表す述語動詞として使われます。一方、過去分詞は have written の完了形や was written の受動態などに用いられます。過去分詞自体が過去時制を表すわけではないため、③が正解です。

- (23) 正解④:wrote は過去形、written は過去分詞である

[解説]write の活用は write—wrote—written です。(A) Tom wrote this letter. の wrote は文の述語動詞として過去を表す過去形です。一方、(B) の written は was と組んで was written という受動態を作る過去分詞です。したがって④が正解です。

- (24) 正解②:形が同じでも、文中での働きから過去形か過去分詞かを判断する

[解説]規則動詞では played のように、過去形と過去分詞が同じ -ed 形になります。そのため形だけでは区別できず、文の述語として過去を表しているのか、完了形・受動態・名詞修飾などに使われているのかを見る必要があります。したがって②が正解です。

- (25) 正解④:The game played yesterday was very exciting.

[解説]④の played yesterday は the game を後ろから修飾し、「昨日行われた試合」という意味になっているため、played は過去分詞です。一方、①～③の played はいずれも文の述語動詞として過去の動作を表す過去形です。同じ played でも働きが異なるため、④が正解です。

- (26) 正解③:この stand は「立つ」という自動詞で、受動態にする目的語を取らないから

[解説]He stood by his teacher. の stand は「立つ」という意味の自動詞で、目的語を取りません。受動態は基本的に「S+V+O」の目的語 O を主語にして作るため、この意味の stand から受動態を作ることではできません。stood という形そのものが誤りなのではないため、③が正解です。貼り付けた Markdown

【7】感情を表す分詞

- (27) 正解②:感情を与える側には現在分詞、感情を受ける側には過去分詞を用いるのが基本である

[解説]感情を表す動詞では、感情を引き起こす・与える側には現在分詞、感情を受けて感じる側には過去分詞を用いるのが基本です。たとえば exciting game は「興奮させる試合」、excited players は「興奮させられた選手たち」です。人か物かだけで判断するものではないため、②が正解です。

- (28) 正解③:surprising news — surprised me

[解説]surprise は「～を驚かせる」という他動詞です。news は「人を驚かせる側」なので surprising news、me は「驚かされる側」なので surprised me という関係になります。与える側=-ing/受ける側=-edという基本関係になっている③が正解です。

- (29) 正解④:I was surprised at the news.

[解説]主語 I は「驚かせる側」ではなく、the news によって驚かされる・驚きを感じる側

です。そのため過去分詞 surprised を用いて be surprised at ～「～に驚く」とします。
I was surprising とすると「私は人を驚かせるような人だった」という別の意味になるため、④が正解です。

- (30) 正解④: game は興奮を与える側、players は興奮を受ける側である

[解説]an exciting game では game が人に興奮を与える側なので exciting を用います。一方、excited players では players が興奮を受けて感じる側なので excited を用います。「物だから -ing、人だから -ed」のではなく、意味上の能動・受動関係で判断するため、④が正解です。

- (31) 正解④: 人・物ではなく、感情を与える側か受ける側かで判断するから

[解説]感情分詞は「人＝過去分詞、物＝現在分詞」という機械的な区別ではありません。たとえば He is interesting. なら、人である He でも「人に興味を感じさせる」という意味で現在分詞を使えます。感情を与える側か受ける側かを判断することが重要なので、④が正解です。

- (32) 正解②: interest・surprise・excite

[解説]interest「～に興味を持たせる」、surprise「～を驚かせる」、excite「～を興奮させる」は、いずれも感情を与える側から受ける側へ働きかける動詞です。そのため人が感情を受ける側になると interested・surprised・excited となります。rise・stand はこのタイプの感情動詞ではないため、②が正解です。

- (33) 正解①: interested は「興味を感じている」、interesting は「人に興味を感じさせる」という意味になる

[解説]He is interested in English. では He は興味を感じる側なので interested を用います。一方、He is interesting. では He が他の人に興味を感じさせる側なので interesting を用います。人を主語にしても interesting は使えるため、「人か物か」ではなく意味関係で判断し、①が正解です。貼り付けた Markdown

【8】分詞と補語

- (34) 正解①: seemed surprised の surprised は補語として He の状態を説明している

[解説]He seemed surprised. の骨格は **He / seemed / surprised(SVC)**で、surprised は主語 He の状態を説明する補語 C です。「彼は驚いているように見えた」という意味になります。seemed が過去形であり、surprised が文の時制を表しているわけではないため、①が正解です。

- (35) 正解③: water が run という動作をする側で、OとCが能動の関係になるから

[解説]get the water running は get + O + C の構造で、O = the water、C = running です。the water が run「流れる」という動作をするため、OとCの間には the water runs という能動関係があります。そのため動き・能動を表す現在分詞 running を用い、③が正解です。

- (36) 正解③: him が wait という動作をする側で、OとCが能動の関係になるから

[解説]keep him waiting は keep+O+C の構造で、「彼を待っている状態にしておく」という意味です。O=him が wait という動作をするため、him と waiting の間には he waits という能動関係があります。そのため現在分詞 waiting を用い、③が正解です。

- (37) 正解③:her arms は「折りたたむ側」ではなく「折りたたまれた状態」にあるから

[解説]with her arms folded では、her arms と fold の関係を考えます。arms が何かを fold「折りたたむ」のではなく、腕が折りたたまれた状態にあるため、受動・完成・静止を表す過去分詞 folded を用います。with の後ろだから必ず過去分詞になるわけではないため、③が正解です。貼り付けた Markdown

【9】分詞構文

- (38) 正解④:分詞を用いて、主節に時・理由・付帯状況などの意味を加える表現である

[解説]分詞構文は、接続詞を用いた副詞節を簡潔にし、時・理由・条件・付帯状況などの意味を主節に加える表現です。たとえば Walking along the street, I met Tom. では「通りを歩いているとき」という情報を加えています。分詞を名詞として使う表現ではないため、④が正解です。

- (39) 正解③:分詞構文の意味上の主語は、原則として主節の主語と一致する

[解説]通常分詞構文では、分詞の動作をする意味上の主語は主節の主語と同じになります。Walking along the street, I met Tom. なら、walking しているのは I です。ただし The weather being fine, ~ のように主語が異なる場合は、その主語を残す独立分詞構文になるため、③が正解です。

- (40) 正解④:接続詞を消す → 主語を比べる → 時制を比べる

[解説]分詞構文を作るときは、まず接続詞を消し、次に従属節と主節の主語を比べます。主語が同じなら従属節の主語を消し、異なれば残します。さらに時制を比べ、同じなら V-ing、従属節の動作が主節より古ければ having+過去分詞にします。この手順を正しく示している④が正解です。貼り付けた Markdown

- (41) 正解③:I

[解説]Walking along the river, I saw a beautiful sunset. では、分詞構文 Walking along the river の意味上の主語は、原則どおり主節の主語 I と一致します。つまりもとの関係は I was walking along the river. と考えることができます。river や sunset が歩いているわけではないため、③が正解です。

- (42) 正解③:分詞構文の意味上の主語は主節の主語と一致し、その主語が「見られる側」になるから

[解説]たとえば Seen from here, the mountain looks beautiful. では、Seen の意味上の主語は主節の主語 the mountain です。the mountain が「見る」のではなく、**the mountain is seen from here「山がここから見られる」**という受動関係になります。そのため Seeing ではなく過去分詞 Seen を用い、③が正解です。

- (43) 正解④:she が「驚かせる側」ではなく「驚かされる側」だから

[解説]Surprised by the news, she couldn't speak. では、分詞構文の意味上の主語は主節の主語 she です。she が人を surprise「驚かせる」のではなく、she was surprised by the news という受動関係になっています。そのため過去分詞 Surprised を用い、④が正解です。

- (44) 正解③:not knowing

[解説]分詞構文を否定するときは、否定語 not を分詞の前に置きます。したがって knowing の否定は not knowing となります。通常の文のように don't knowing としたり、knowing not としたりすることはできません。したがって③が正解です。

- (45) 正解②:何を言えばよいかわからなかったなので、私は黙っていた

[解説]Not knowing what to say は「何を言えばよいかわからなかったので」という理由を表す分詞構文です。意味上の主語は主節の I で、もとの関係は Because I did not know what to say, ～ と考えられます。したがって文全体の意味に合う②が正解です。

- (46) 正解③:レポートを完成させたことが、帰宅より前に起こった

[解説]Having finished the report, she went home. の having+過去分詞は完了形の分詞構文です。finish the report が went home よりも前に完了したことを明確に表し、「レポートを完成させてから、彼女は帰宅した」という意味になります。したがって③が正解です。

- (47) 正解③:having + 過去分詞

[解説]分詞構文の表す動作が主節の動作より前に起こったことを明確にする場合、having + 過去分詞を用います。たとえば Having finished my homework, I went out. は、宿題を終えた後で外出したことを表します。being finish や having finishing とはしないため、③が正解です。

- (48) 正解④:having been + 過去分詞

[解説]完了形の分詞構文 having+過去分詞をさらに受動態にすると、having been+過去分詞になります。たとえば Having been invited to the party, I was very happy. は「パーティーに招待されていたので、私はとてもうれしかった」という意味です。したがって④が正解です。

- (49) 正解④:分詞構文に主節とは異なる意味上の主語 The weather が置かれている

[解説]The weather being fine, we decided to go out. では、being fine の意味上の主語は The weather、主節の主語は we で異なります。このように分詞の意味上の主語が主節の主語と異なる場合、その主語を省略せずに残します。この形を独立分詞構文といい、④が正解です。

- (50) 正解③:there is / are 構文では、there を残して there being ～ の形にする

[解説]there is / are 構文を分詞構文にする場合は、there を省略せず、be 動詞を being にして there being ～ とします。たとえば There being no buses, we had to walk home. は「バスがなかったので、私たちは歩いて帰らなければならなかった」とい

う意味です。場所を表す there ではない点にも注意し、③が正解です。

- (51) 正解③:天候を表す it を残し、it having+過去分詞の形にする

[解説]It having rained, the ground was wet. では、天候を表す it を意味上の主語として残します。また「雨が降った」という出来事が「地面がぬれていた」より前なので、having+過去分詞=having rained を用います。したがって「主語を残す」と「主節より古い動作」の両方を満たす③が正解です。

- (52) 正解③:not は、V-ing や having+過去分詞の直前に置く

[解説]分詞構文を否定するときは、not を分詞の直前に置きます。基本形なら Not knowing what to say, I remained silent.、完了形なら Not having finished my homework, I stayed home. となります。having not finished のように not を having の後ろに置くのではないため、③が正解です。貼り付けた Markdown 貼り付けた Markdown